

## オランダ VROM の VER 評価基準報告書

### ( *Evaluation of Carbon Credit Standards* ) 概要

#### ( 1 ) 概要

オランダ議会において、気候変動の相殺 ( climate compensation ) が議論<sup>1</sup>されたことを受け、オランダ住宅・国土計画・環境省 ( VROM ) の Cramer 大臣の命により、ARCADIS/CE が Voluntary Carbon Credits ( VER ) に関する評価を実施することとなった。

この評価結果が 2009 年 2 月 3 日に *Evaluation of Carbon Credit Standards* として公表されている。同評価報告書は、政府が調達するクレジットの判断基準を提示するために、次の事項について整理することを目的としている。

- ✓ VER 市場の認証基準の品質保証基準やプロジェクトの評価プロセスの整理
- ✓ オランダ政府が調達するクレジットのうち最低限のクライテリアを提言
- ✓ 森林プロジェクトから生成されたクレジットと先物クレジットについての分析

#### ( 2 ) 分析対象とする認証基準

評価報告書では、オランダ国内で入手可能な下記のプログラムから生成されるクレジットについて、評価を実施している。

- ・ Clean Development Mechanism ( CDM ).
- ・ Gold Standard ( GS ).
- ・ Voluntary Carbon Standard ( VCS ).
- ・ VER+.
- ・ Chicago Climate Exchange ( CCX ).
- ・ Voluntary Offset Standard ( VOS ).
- ・ Climate, Community & Biodiversity Standards ( CCBS ).
- ・ Plan Vivo.

---

<sup>1</sup> オランダ国内における Voluntary Carbon Credits ( VER ) に関する一般市民からの疑問に答える形で、オランダ議会においても Voluntary な気候変動の相殺 ( climate compensation ) への 23 件の質問が 2008 年 6 月 16 日に提出された。オランダ住宅・国土計画・環境省 ( VROM ) の Cramer 大臣は政府が調達するクレジットの最低限の品質基準を定めることを議会に約束し、Voluntary Carbon Credits ( VER ) に関する評価を ARCADIS/CE に指示した。

### (3) クレジットの信頼性評価基準

同評価報告書によるクレジット評価基準及びバリア（想定されるリスク）を表1に示す。

表1 クレジットの評価基準及びバリア

クレジットの評価基準	バリア
バリデーションプロセス ▶ バリデーションレポートの確認 ▶ 活動の定期的確認 ▶ 検証人の選定 ▶ 利害関係者のコンサルテーション	・ プロジェクトの追加性がない ・ リークージ ・ プロジェクトの持続可能性がない ・ 排出削減量の過剰推計
検証の内容 ▶ 追加性 ▶ ベースラインシナリオ ▶ リークージ ▶ 持続可能性 ▶ クレジット期間	
検証の品質 ▶ 検証計画の確認 ▶ バリデーション・ベリフィケーションの実施(別途実施)	・ 排出削減量の過剰推計
登録	・ ダブルカウントの可能性がある
クレジットの供給	・ クレジットの入手が難しい
テンポラリークレジット	・ パフォーマンスがない
先物クレジット(未発行クレジット)	・ プロジェクトが実施されない可能性がある

出典：Evaluation of Carbon Credit Standards

### (4) 評価結果

上記の評価基準に照らし合わせ、CDMの要求するレベルを基準として評価分析を行った結果は表2のとおりとなる。

表 2 評価分析結果

Standard	Proces validation				Content validation				Verification		Regis- tration	Avallability	permanenc (LULUCF)		
	Check on validation reports	Spot -check activities	Selection auditors	Stakeholder consultation	Additionality tests	Baseline sosnario	Leakage	Sustainability	Extending crediting period	Check on verification reports	Validation and verification by different auditors	Registration	Availability credits	Permanence	
Gold Standard	=	-	=	=	=/+	=	=	+	=	=	=	=	-	N/A	
VCS	-	-	=/-	=	=	-	=	-	-	-	-	?	*	+	-
VER+	-	-	=	=	=	=	=	-	=	-	-	=	-	-	-
VOS	-	-	=	=	=	=	=	=	=	-	=	*	-	-	-
CCX	=	-	?	-	-	?	-	+	+	=	-	=	-	-	-
CCBS	-	-	=	=	=	?	=	+	N/A	-	-	-	N/A	-	-
Plan Vivo System	-	-	?	=	=	?	=	+	+	-	-	=	N/A	-	-

= : CDM と同等

- : CDM より質が低い

+ : CDM より質が高い

? : CDM と比較が難しい

・ : 現状で登録簿がないが構築予定

N/A : 情報なし

クレジットの入手可能性 ( Availability credits ) の欄の - の意味は、CDM クレジットよりも入手困難

## (5) オランダ政府のクレジット調達判断基準の提案

上記調査結果に基づき、同報告書はオランダ政府が調達するクレジットとして信頼に足る最低限のクライテリアについて、次の2点を挙げている。

### 検証人の力量

プロジェクトの実施において、有効化審査により追加性、算定、リーケージ、持続可能性を適格に判断する必要がある。これには、検証人の力量が重要な要素である。

### 追加性の評価

有効化審査の質は適用する方法論の質に依存するため、認証プログラムが追加性の決定に関するレベルの高い評価基準を設けていることが重要な要素となる。

上記に基づき、各プログラムをスコアリングした結果は次のとおり。

表 3 のクライテリアに基づく ( CDM を基準とした ) スコア

	検証人の確認	追加性テスト	合計スコア
Gold Standard	= / -	= / -	0
CCX	= / -	-1	-1
VCS	-1	=	-1
VER+	-1	=	-1
VOS	-1	=	-1
Plan Vivo System	-2	=	-2
CCBS	-2	=	-2

= : CDM と同等

- : CDM より質が低い

+ : CDM より質が高い

表 3 に示した評価結果では、バリデーション・ベリフィケーションレポートの評価や追加性テストにおいて、CDM 同等の質を確保しているのは Gold Standard 以外ないとの結果であった。

また、CCX と Gold Standard 以外は、バリデーション、ベリフィケーションレポートを確認する理事会を設けていないためマイナス評価であった。VCS、VOS、VER+ は Validation と Verification という 2 段階の検証を設けていないため - 1 評価、Plan Vivo と CCBS は、そもそも検証を実施しない ( 品質確認のみで算定量の検証を行わない ) ため、検証人選定のクライテリアを設けていないことから - 2 評価であった。

追加性の評価については、全ての VER 基準は方法論を策定していることから CCX 以外は CDM 同等の評価をされている。

同報告書は、有効化審査を実施しない場合の問題点として、プロジェクトの追加性やベースラインの設定、排出削減量の算定方法、持続可能性の確認は検証人任せになること、また検証人任せになる場合、プロジェクト開発者が検証人を自由に選定できるため、利害関係が生じる可能性について指摘している。

上記の調査結果に基づき、同報告書はクレジットの信頼性は検証人による評価が重要であることから、オランダ政府には CDM 及び Gold Standard によるクレジット以外は調達しないよう提言している。

## (6) 森林プロジェクト

政府が森林や土地利用のプロジェクトに投資すべきかどうかという判断について、A/R、REDD については、持続性の問題が指摘されている。これらクレジットには、算定が難しく、追加性に乏しい、リーケージのリスクが高いという批判がある一方で、森林保全や発展途上国への資金提供につながるという利点もある。

結論として同報告書は、オランダ政府には CDM で承認された A/R プロジェクトのみ取得することを推奨している。REDD の購入を推奨しない理由としては、森林保全がなかりせば森林伐採が起こることを証明することや、もし森林保全を実施してもその後には伐採されるというリーケージの可能性などについて結論がでていないことを理由に挙げている。

A/R クレジットの持続性を確保については、長期間にわたり同一の A/R クレジットに投資することが考えられるが、複雑かつ高価なクレジットに投資するかどうかは政治的判断に委ねられるとしている。

## (7) その他の課題

既に支払いを済ませたにも関わらず、プロジェクトはまだ実施されていない先物クレジットについては、想定した量よりもクレジット量が少ない、またはプロジェクトが実施されないといったリスクが想定される。

こういったクレジットを購入する場合の課題として、政府が排出削減したと国民に説明する際に、まだ削減が実現していないものを購入したと PR してよいのかという問題がある。

このほか、VER 市場には、登録簿を統一して管理する制度がないため、同じプロジェクトが異なる認証基準で承認される可能性が否定できない点も今後の課題とされている。

以上